

最終報告会

東京大学 21世紀 COE プログラム「心とことば — 進化認知科学的展開」
 本プログラム最終年度の年度末にあたり、最終報告会を開催いたします。トークとポスターの形式で
 全研究プロジェクトの成果報告をいたします。多数のご来場を心よりお待ちしております。
 拠点リーダー 長谷川寿一(東京大学大学院総合文化研究科)

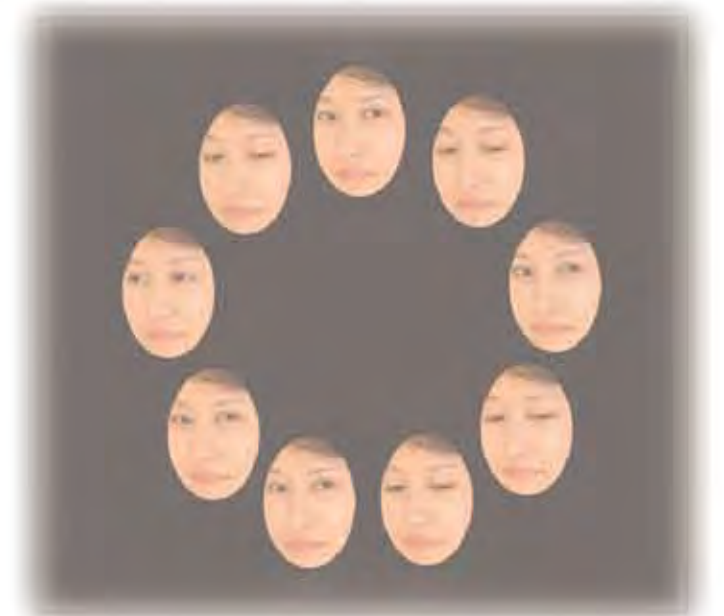
2008年3月7日(金) 10:00~17:00

東京大学駒場Iキャンパス 学際交流ホール

渋谷駅等より 京王井の頭線「駒場東大前」駅下車徒歩2分 アドミニストレーション棟3F

A. 人間進化学部門 (リーダー:長谷川寿一)

- 2003~07 長谷川寿一『自閉症児の社会的認知に関する実験心理学的研究』
- 2003~07 長谷川寿一『チンパンジーの社会行動に関する行動内分泌学的研究』
- 2003~07 長谷川寿一『パーソナリティ・意思決定・社会行動に関する神経行動内分泌学的研究』
- 2004~07 長谷川寿一『動物音声科学:社会的信号としての音声』
- 2005~07 長谷川寿一『覚醒チンパンジーを対象とした事象関連電位計測』
- 2006 長谷川寿一『ヒトとチンパンジーにおける食行動の比較認知発達研究』
- 2006 長谷川寿一『音楽の構造的聴取に関わる脳磁界活動の計測』
- 2003~07 船曳建夫『食行動に関する文化性と自然性』
- 2003~07 諏訪元『先端的な形態学手法にもとづいた人類の起源と進化に関する研究』
- 2003~07 吉川泰弘『霊長類脳のプロテオーム解析』
- 2003~06 石田貴文『ヒトと類人猿ゲノムの比較解析』
- 2007 石田貴文『新たなバイオマーカーを用いたストレスの評価』



B. 心理言語科学部門 (リーダー:繁樹算男)

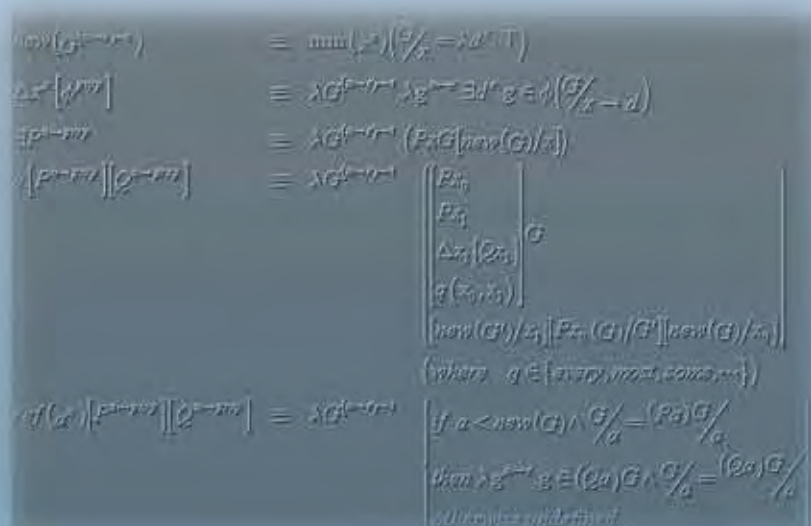
- 2003~07 繁樹算男『遺伝と環境要因の影響の多変量解析』
- 2003~07 伊藤たかね『人間の言語処理についての認知心理学・神経科学的研究』
- 2003~07 西村義樹『認知言語学の観点からの言語の多様性についての統合的理論の構築』
- 2003~07 佐藤隆夫『非言語コミュニケーションにおける視聴覚情報処理』
- 2005~07 村上郁也『眼球運動と視認成績との連関』
- 2007 川島尊之(村上郁也)『音の振幅変化の検出過程の研究』

C. 統合言語科学部門 (リーダー:ラマルル・クリスティーン)

- 2003~07 ラマルル・クリスティーン『空間移動の言語表現の対照研究』
- 2003~05 ラマルル・クリスティーン『共通語化と言語変化』
- 2003~07 生越直樹『日本語と朝鮮語の対照研究』
- 2003~07 坪井栄治郎『受動文の個別性と一般性』
- 2003~06 タンクレディ・クリストファー『Wh-interpretation and Plurality』
- 2003~04, 2006~07 矢田部修一『自然言語における意味計算の研究』
- 2004 大堀壽夫『談話能力の発達研究』
- 2003~07 藤井聖子(ラマルル・クリスティーン)『談話と文法:成人の言語使用と子どもの文法・談話能力の獲得』
- 2003~07 田中伸一(広瀬友紀)『音韻論における理論的および実験的研究の進展』
- 2005~07 楊凱榮(ラマルル・クリスティーン)『中国語の全称詞(Universal Quantifiers)構文に関する認知言語学的研究』

D. 計算言語科学部門 (リーダー:加藤恒昭)

- 2003~07 加藤恒昭『動詞語彙概念構造レキシコンの構築』
- 2007 加藤恒昭『認知言語学的分析と計算機シミュレーションによる平叙文の動的側面の研究』
- 2003~07 中澤恒子『移動事象が終わるところ — 経路、到着、結果』
- 2003~07 田中久美子『大規模言語データに内在する数理構造に関する研究 — 言語単位と情報量の関係について』
- 2006 幸田薫(中澤恒子)『ドイツ語における構文認知の方法』



E. 認知発達臨床科学部門 (リーダー:開一夫)

- 2003~07 開一夫『社会的認知機能の発達メカニズム:比較発達認知神経科学アプローチ』
- 2003~07 丹野義彦『精神病理の発生メカニズムと治療的介入についての認知行動アプローチ』
- 2004~07 長谷川寿一『サバン症候群における特異的認知機能の認知神経科学的研究』